

目 次

〈 繊維情報 〉

- ・2006年5月の繊維品輸出概況(繊維品全体・原料・織編物・主要二次製品)……………1
- ・2006年4月の繊維品輸入概況(繊維製品計・糸類・織物類・衣類)……………7
- ・アジア 中 国 2006年1～4月の繊維品貿易・輸出は高率の伸びを維持、輸入も大幅な増加…10
- 香 港 2006年第1四半期の繊維品貿易・輸出入共に堅調に推移……………14
- タ イ 2006年第1四半期の繊維品貿易・輸出は好調に推移、輸入は微減推移……………16
- ・米 州 米 国 2006年4月の繊維品輸入、3カ月ぶりに増加……………19
- 2006年5月の大手小売店販売、予想外に堅調……………21

〈 組合関係の会議と催事 〉

- ・(2006年6月)(2006年7月のスケジュール)……………24

〈 組合業務報告 〉

- ・3 運賃同盟、繊維品のスペシャル・レートの適用を延長(輸出)……………27
- ・繊維品輸出荷主連合会(TSA)、第20回通常総会を開催(輸出)……………28
- ・「外国為替の基本」講習会を開催(大阪地区/輸出入)……………29
- ・2006年度アパレル委員会海外調査ミッション実施概要報告(輸入)……………30
- ・寝具インテリア委員会の「インテリアライフスタイル 2006」への出展概要(輸入)……………32
- ・東京・大阪・名古屋で「貿易実務の基礎研修会」開催(輸入)……………33

〈 お知らせ 〉

- ・繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出)……………36
- ・「ブラジル」向け他5カ国の保険引受方針変更(輸出)……………37
- ・日馬EPAに基づく特定原産地証明書発給手続きに関する説明会(JETRO・日本商工会議所)……………38
- ・8月の輸入通関手続相談窓口開設日(輸入)……………39

〈 組合員情報 〉

- ・組合員情報……………39



◎ 2006年5月の繊維品輸出概況

1. 繊維品全体の輸出

－前年同月比5%増の6億6,541万ドルと3カ月振りに増加に転じる－

2006年5月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比5%増の6億6,541万ドル（1-5月前年同期比：3%減）と3カ月振りの増加となった。

また、為替が2005年5月の106.91円に対し、2006年5月は111.51円と約4%の円安推移となっていることから、円ベースでは10%増（同6%増）の742億円と前月に続き増加している。

<主要地域別輸出>

5月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の75%を占め、わが国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けが3%増（同5%減）の5億581万ドルと、3カ月振りに増加に転じた。

東アジアの主要国向けでは、香港、台湾、フィリピン、インドネシアが減少推移となったが、最大市場の中国を始め、韓国、ベトナム、タイ、シンガポール、マレーシアが好調に推移した。中でも、このところ減少推移にあった中国が増加に転じ、全体の輸出増加に貢献した。

純輸出市場向けは、シェア5%の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国、イランが大幅に増加し、全体として59%増（同29%増）の3,067万ドルと、オイル景気もあり、今年に入り好調な推移が続いている。

欧米市場は、シェア8%のEUは、糸、織物類が健闘し1%増（同10%減）の5,307万ドルと微増、一方、同じくシェア8%の米国は、原料、織物類等総じて好調に推移し、13%増（同2%増）の5,174万ドルと2桁の増加となった。

<主要商品別輸出>

5月の輸出を主要商品別にみると、まず綿類は、全体としては、数量で12%増（同横ばい）、金額で12%増（同3%増）と数量・金額共に2桁の増加となった。

太宗の合繊綿は、数量で12%増（同2%増）、金額で8%増（同3%増）となった。この内、主力のアクリル綿は、主要国の中国、イランが大きく伸び、インドネシアは後退したが、数量で15%増（同4%増）、金額で14%増（同6%増）と大幅な増加となった。

また、ポリエステル綿は、タイ、中国が減少したが、EU、米国が好調に推移し、数量で6%増（同1%減）、金額で1%増（同4%減）となった。

その他の合繊綿では、ビニロン綿は、主力のEU向けが好調で、数量で5%増（同13%減）、金額で6%増（同15%減）と堅調に推移した。

スフ綿は、中国が激減したが、韓国、パキスタン、トルコが大幅に増加し、数量で19%増（同2%減）、金額で30%増（同6%増）となった。

繊維品輸出実績(2006年5月)

単位	2006年5月				2006年1月~5月				2005年実績				
	数量	金額		前年同月比	数量	金額		前年同期比	数量	金額		数量	
		百万円	千ドル			ドル	百万円			千ドル	ドル		百万円
繊維品総合計													
原料(綿)合計	35,154	74,200	665,410	105	172,679	3,098,379	106	416,305	890,100	8,070,165			
スフ綿	4,701	9,392	84,226	112	24,383	47,860	113	63,446	107,778	787,717			
合繊綿	27,711	1,941	17,403	130	135,281	87,183	106	23,495	23,495	212,920			
(ポリエステル)	3,913	7,267	65,168	108	19,682	31,115	103	316,728	81,370	739,213			
(アクリル)	21,512	690	6,188	101	103,730	30,144	96	45,356	7,900	71,868			
糸 合計	10,778	5,457	48,938	115	54,230	26,895	117	242,939	59,092	536,513			
人絹糸	1,052	8,553	76,701	98	4,854	348,078	98	132,208	95,133	864,266			
スフ糸	66	913	8,186	87	153	35,431	109	12,825	9,694	87,856			
合繊長糸	8,734	44	398	200	44,990	1,440	80	306	430	3,918			
(ナイロン)	1,764	6,493	58,229	100	9,911	272,156	99	107,118	72,886	662,944			
(ポリエステル)	3,232	1,445	12,963	89	16,355	63,010	102	23,971	16,878	153,473			
合繊短糸	340	1,570	14,076	93	1,584	7,595	97	39,619	17,695	161,032			
綿糸	412	319	2,864	80	1,970	11,597	89	4,378	3,565	32,329			
綿物合計	99,316	302	2,712	82	467,440	12,790	101	5,540	4,213	38,008			
絹織物	628	27,981	250,925	109	3,379	1,172,691	100	1,220,260	359,644	3,257,973			
人絹織物	6,258	1,113	9,982	108	28,377	47,765	114	8,261	13,387	121,576			
スフ織物	700	2,050	18,380	93	3,998	10,191	106	81,049	25,408	230,287			
合繊長織物	49,152	277	2,482	78	213,754	1,615	80	12,434	5,172	46,859			
(ナイロン)	6,926	10,140	90,931	112	27,124	45,488	102	569,210	121,637	1,100,944			
(ポリエステル)	38,084	1,455	13,053	156	162,256	5,697	122	58,693	11,881	107,382			
合繊短織物	13,935	7,467	66,961	108	71,059	283,721	99	447,797	91,064	824,217			
綿織物	24,594	3,272	29,338	120	131,584	136,973	108	166,976	39,477	358,090			
毛織物	3,861	8,376	75,119	106	12,840	46,094	96	324,399	112,859	1,023,663			
不織布	50,842	2,646	23,726	99	24,310	9,128	84	54,172	38,815	350,009			
タイヤード織物	1,364	4,893	43,883	105	6,338	212,219	104	592,985	55,758	505,607			
コート織物	1,628	236	2,116	77	6,994	9,310	88	15,300	2,565	23,416			
ニット生地		4,380	39,277	98	27,013	152,000	97	17,585	42,650	387,386			
アパレル		6,010	53,900	111	16,079	233,294	115	66,435	60,666	600,666			
その他		2,507	22,480	99	48,583	138,491	98	40,709	40,709	370,175			
		10,248	91,902	104		419,389	109	119,428	119,428	1,081,958			

(注) 1. 繊維品総合計は、HS関税分類11部の合計。 2. 原料(綿、糸、織物)合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。

3. アパレルは61類(ニット製衣類)と62類(布帛製衣類)を合算したもの。 4. その他は、63類及び65類~59類の一部商品。

糸類の輸出は、数量で 2%減（同 2%減）、金額で 6%増（同 5%減）と、数量減の金額増となった。

主力の合繊長繊維糸は数量で横ばい（同 1%減）、金額で 9%増（同 6%減）となった。その内訳は、ポリエステル糸は、中国、台湾が伸びたが、米国、EU が振るわず、数量で 7%減（同 3%減）となった。但し、金額は、単価のアップにより 1%増（同 7%減）となった。

ナイロン糸は、中国は増加したが、タイ、EU が不振で、数量で 11%減（同 11%減）となったが、ポリエステルと同様、単価のアップにより、金額で 4%増（同 7%減）となった。その他の合繊長繊維糸では、ポリウレタン糸は、主力の中国を中心とする東アジアが不振で、数量で 14%減（同 9%減）、金額で 8%減（同 25%減）と大きく後退した。

また、人絹糸は、中国、韓国が不振で、数量で 13%減（同 11%減）、但し、単価のアップにより、金額は横ばい（同 1%減）に止まった。

太宗の織物類の輸出は、数量で 9%増（同横ばい）、金額で 5%増（同 8%減）と、数量・金額共に久し振りに増加推移となった。

織物の内訳では、中心品目のポリエステル長繊維織物は、数量で 8%増（同 1%減）、金額で 4%増（同 6%減）となった。地域的には、全体の 69%を占める東アジア向けは、香港、台湾、タイは減少したが、最大市場の中国を始め、韓国、ベトナム、スリランカが好調に推移し、東アジア全体として 6%増（同 2%減）となった。

一方、純輸出市場向けは、西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国が共に大幅に増加し、西アジア全体として 37%増（同 20%増）と好調に推移した。

欧米市場向けは、EU は 39%増（同 13%増）と先月に続き増加したが、米国は 10%減（同 19%減）と不振が続いている。

ナイロン織物は、数量で 56%増（同 22%増）、金額で 40%増（同 25%増）と好調を持続している。シェア 85%の東アジア向けは、主力の中国、ベトナム、韓国が大きく伸び、全体として 80%増（同 33%増）と激増した。その他では、シェア 6%の米国は 38%減（同 30%減）と大幅な後退となった。

綿織物は、数量で 6%増（同 4%減）、金額で 3%増（同 10%減）と、数量、金額共に久し振りに増加推移となった。85%のシェアを占める東アジア向けは、最大市場の中国、ベトナム、韓国、マレーシアが増加推移となり、香港、タイは減少したが、東アジア全体として 2%増（同 2%減）となった。その他の市場では、シェア 10%の米国は 36%増（同 8%減）と徐々に大幅な増加となった。

ポリエステル短繊維織物は、数量で 20%増（同 10%増）、金額で 15%増（同 3%減）と数量、金額共に 2 桁の増加となった。全体の 59%を占める東アジア向けは、中国、ベトナムが減少したものの、香港、タイ、インドネシアが大幅に増加し、東アジア全体として 3%増（同 2%減）となった。一方、シェア 40%の民族衣装用の西アジアは、アラブ首長国、サウジアラビア、クウェートが揃って大幅増勢で推移し、西アジア全体として 63%増（同 36%増）の大幅な増加となった。

人絹織物は、数量で 7%減（同 8%減）となったが、単価のアップにより、金額では 4%増

(同 3%減)と数量減の金額増となった。シェア 73%の東アジアは、中国は増加したが、最大市場の香港が減少推移となり、東アジア全体として 5%減(同 5%減)となった。シェア 13%の西アジアは、サウジアラビアは減少したが、アラブ首長国が大きく伸び、全体として 13%増(同 14%増)となった。一方、欧米市場は、EU が 11%増(同 22%減)となったが、米国は 21%減(同 15%減)となった。

毛織物は、数量で 1%減(同 16%減)、金額で 5%減(同 17%減)と数量、金額共に減少推移となった。地域的には、東アジアが 95%とほぼ全量を占めている。ベトナムは増加したが、圧倒的なシェアを占める持ち帰り用の中国、また香港が共に微減となり、東アジア全体として 1%減(同 17%減)となった。

不織布の輸出は、数量で 5%増(同 4%増)、金額で横ばい(同 3%増)となった。全体の 54%を占める東アジアは、最大市場の中国、またベトナムは好調に推移したが、香港、韓国、台湾、タイが減少し、全体として 16%減(同 14%減)となった。

一方、欧米市場は、シェア 36%の米国は 58%増(同 58%増)と好調を維持し、量的には最大の市場になっているが、シェア 6%の EU は 24%減(同 12%減)と大幅な減少となった。

コート織物の輸出は、数量で 2%減(同 3%減)、金額で 2%増(同 4%減)と数量減の金額増となった。全体の 82%を占める東アジアは、最大輸出先の中国またタイが好調に推移したが、香港、ベトナムが減少し、全体として横ばい(同 2%減)となった。欧米市場は、シェア 6%の EU は 43%増(同 16%増)と伸びたが、シェア 5%の米国は 32%減(同 45%減)と不振に終わった。

ニット生地の輸出は、数量で 2%増(同 7%増)、金額で 11%増(同 5%増)と数量、金額共に増加推移となった。全体の約 9割強を占める東アジア向けは、主要国では、最大市場の中国、韓国、台湾、タイ、インドネシアが増加推移となり、一方、香港、ベトナムは減少推移となった。また、欧米市場向けは、米国は大幅な増加が続いているが、EU は微減推移となった。

アパレルの輸出は、金額で 1%減(同 11%減)と微減推移となった。内容的には、布帛製衣類の外衣類は、台湾、香港、中国は減少したが、米国、EU、韓国が好調に推移し、金額で 18%増(同 8%減)となった。下着類は、台湾、香港、EU が減少したが、韓国、米国が健闘し、金額で 8%増(同 4%増)となった。

一方、ニット製衣類では、外衣類は、台湾は増加したが、香港、中国、韓国が低調で、金額で 16%減(同 3%減)となった。また、下着類は、米国は増加したが、韓国、中国、台湾、香港が低調な推移となり、金額で 22%減(同 25%減)と大幅な減少となった。

その他二次製品は、金額で 4%増(同横ばい)と堅調な推移となった。

II. 原料（綿・糸）の輸出

<綿輸出>

合繊綿、スフ綿などの綿合計は、ナイロン綿が減少推移となった他は、主力のアクリル綿をはじめ、全般的に堅調な伸びを示し、全体では12%増の35,154トンとなった。金額についても12%増の8,423万ドルとなった。

<糸輸出>

糸は、主力の合繊長繊維糸が横這い推移となった他は、合繊短糸、人絹糸、綿糸が不振に推移し、全体では2%減の10,778トン、金額については6%増の7,670万ドルとなった。

2006年5月の原料（綿・糸）の輸出状況

単位：トン、千ドル、セント、%

	2006年5月				2006年1～5月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	4,701	119	17,403	370	24,383	98	87,183	358
合繊綿	27,711	112	65,168	235	135,281	102	317,115	234
ポリエステル	3,913	106	6,188	158	19,682	99	30,144	153
アクリル	21,512	115	48,938	227	103,730	104	232,044	224
他合繊綿	2,288	100	10,042	439	11,869	92	54,927	463
人絹糸	1,052	87	8,186	779	4,854	89	35,431	730
合繊長糸	8,734	100	58,229	667	44,990	99	272,156	605
ナイロン	1,764	89	12,963	735	9,911	89	63,010	636
ポリエステル	3,232	93	14,076	436	16,355	97	65,555	401
他合長糸	3,740	115	31,190	834	18,724	109	143,591	767
綿糸	412	82	2,712	658	1,970	101	12,790	649

出所：財務省統計

III. 織・編物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出

5月の織物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出は、ポリエステル長繊維織物、ナイロン織物、ポリエステル短繊維織物、綿織物の主要織物が揃って徐々に数量、金額共に健闘し、織物トータルとして、数量で前年同月比9%増（1-5月前年同期比横ばい）、金額で5%増（同8%減）となった。

なお、この織物トータルの中に含まれていない、ニット生地は堅調推移、コーテッド織物は

数量微減の金額微増となった。

市場的には、織物トータルでは、主力の東アジアは、主要国では、最大市場の中国を始め、韓国、ベトナム、マレーシアが数量・金額共に前年同月を上回り健闘した。一方、香港、台湾、シンガポール、インドネシア、タイ、フィリピンは数量・金額共に前年同月を下回った。

純輸出市場では、西アジアは、オイル景気もあり、サウジアラビア、アラブ首長国が揃って数量・金額共に前年同月を上回り、好調を継続している。また、欧米市場は、EUは太宗のポリエステル長繊維織物が久し振りに健闘し、数量・金額共に増加推移となった。また、米国も主力の綿織物が大幅に増加し、数量・金額共に増加推移となった。

2006年5月の織・編物（絹・化合織・綿・毛）の輸出状況

単位：1000SM、1000\$、前年比は数量比 %

	2006年5月			2006年1-5月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	628	9,982	108	3,379	47,765	114
人絹織物	6,258	18,380	93	28,377	87,911	92
スフ織物	700	2,482	78	3,998	13,934	80
合織（長）織物	49,152	90,931	112	213,754	392,957	102
ポリ（長）織物	38,084	66,961	108	162,256	283,721	99
ナイロン織物	6,926	13,053	156	27,124	49,285	122
合織（短）織物	13,935	29,338	120	71,059	136,973	108
ポリ（短）織物	12,860	26,994	120	66,128	127,921	110
綿織物	24,594	75,119	106	131,584	397,336	96
毛織物	3,861	23,726	99	12,840	79,104	84
コーテッド織物	1,628	39,277	98	6,994	152,000	97
ニット生地	15,695	53,900	102	73,500	233,294	107

(注) 1. ポリエステル（長）、ナイロン（長）織物は、ポリエステル、

ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。

2. コーテッド織物の数量単位はトン。

IV. 主要繊維二次製品の輸出

繊維二次製品の 2006 年 5 月の輸出は、金額（ドル）ベース（以下同じ）で、アパレルは布帛製外衣・下着が増加推移となったが、ニット製外衣・下着が不振に推移し、全体では前年同月比 1% 微減の 22,480 千ドルとなった。他方、その他の品目については、敷物が減少推移、漁網・その他の網・網地が増加、細幅織物・紐類は微増推移となった。

2006 年 5 月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：千米ドル、金額：前年比%

	2006 年 5 月		2006 年 1～5 月	
	金額	前年同月比	金額	前年同期比
布帛製衣類・付属品	13,236	114	80,228	93
外 衣	6,902	118	47,850	92
下 着	3,388	108	19,117	104
スカーフ・マフラー	476	112	2,689	102
ニット製衣類・付属品	9,244	84	58,263	84
外 衣	2,617	84	18,598	97
下 着	4,134	78	28,373	75
敷 物	2,299	94	12,055	98
漁 網 ・ 網 ・ 網 地	5,251	118	19,185	112
細 幅 織 物 ・ 紐 類	16,518	101	71,480	95

◎ 2006 年 4 月の繊維品輸入概況

1. 繊維製品計

4 月の輸入は、金額が円ベース前年同期比 115.1%（前月比は 93.9%）、ドルベース同 105.5%（前月比は 94.0%）、数量(重量)同 101.2%（前月比は 98.3%）と、円金額が 9 ヶ月連続で増加、ドル金額と数量は 2 ヶ月連続で増加した。前月比は、前月が高水準だったこともあり金額、数量ともに減少した。

糸類は数量で前年同期比 6.3% 減と前月よりマイナス幅が改善したものの 11 ヶ月連続で減少。内訳は、絹糸、人織(長)糸が増加し、毛糸、綿糸、人織(短)糸、その他の糸が減少した。織物類は同 4.2% 減と 2 ヶ月ぶりに減少。絹織物、毛織物、人織(長)織物、その他の織物が増加し、綿織物、黄麻織物、人織(短)織物、メリヤス生地が減少した。衣類は同 4.5% 増と 2 ヶ月連続で増加。衣類を除くインテリア用品等の二次製品は同 1.1% 増と 2 ヶ月続けて増加した。

前月は前年同期比で円金額が 21.6% 増加したのをはじめ、ドル金額が 9.1% の増加、数量も

7.2%の大幅増加となったが、今月は円金額が 15.1%増加、ドル金額が 5.5%の増加、数量も 1.2%の増加と、円安による円金額での大幅増を除けば落ち着いた水準での増加となった。4月の為替相場は前年同月比 9.1%円安の 117 円 11 銭であった。ドル金額の内訳を見ると、糸類が 2.5%増加、織物類は 2.2%、太宗を占める衣類は 6.4%、二次製品は 2.1%それぞれ増加し、繊維製品計では 5.5%の増加となった。

2. うち糸類

- 綿糸の輸入実績は、トンベースで前月比 3.8%、前年同月比も 21.1%の減少となり前月比は 3 ヶ月連続、前年同月比は 4 ヶ月連続のマイナスとなった。これは、1981 年 7 月以来の低水準輸入で、我が国の綿糸市況の低迷もさることながら産地の縮小に伴う糸消費の減少によるものである。綿糸輸入の 84%を占める純綿糸を前月に比較すると、輸入国 2 位のインドネシア、3 位のインドは増加したものの、首位のパキスタン、4 位の中国は国内好調により減少となった。番手別に見ると細番手の 40 番手以上が 4.8%の増加となったが、最も量的に多い 20 番手中心 4.8%、30 番手中心 4.9%、40 番手中心も 16.4%の減少となった。また糸種別に見るとカード糸、コマ糸とも 11.7%、1.7%の減少となった。なお、比較的安定した輸入が続いていた混紡綿糸は 4 月の特惠関税の適用で 10.0%の増加となった。
- 毛糸の輸入実績は前年同月比重量ベース 1.3%減と 5 ヶ月ぶりの増加となった前月から再び減少した。糸種別に見ると、紡毛糸が同 6.0%増と 4 ヶ月連続の増加となったが、太宗を占める梳毛糸は同 1.9%減となった。国別では、トップシェアの中国が同 7.2%増で 3 ヶ月ぶりに増加し、第 2 位のマレーシアも同 19.7%増加したが、この他の主要国のタイ、台湾、ペルー、イタリアなどからの輸入が軒並み減少した。
- 人織糸の輸入実績は、トンベースで人織(長)糸が 1 万トン台回復の前月比 18.6%増となり、前年同月比も 1.3%増と僅かながらプラスとなった。主要商品を前月に比較すると、米国を中心とするナイロン糸は 4 ヶ月連続で 2,000 トンは堅持したものの 3.4%減、主力商品の台湾からのポリエステルは秋冬向けのシーズンインと昨年の厳冬により在庫整理が進んだことから 22.8%の大幅増、量的に少ない人絹糸は 97.4%の約 2 倍の増加となった。一方、人織(短)糸は主要商品の T/C, T/R のインドネシアからのポリエステル紡績糸は 36.3%の大幅増、インドネシア、中国からのマイヤー毛布用のアクリル紡績糸も 8.8%増の 2 ヶ月連続プラスとなり、全体では前月比 23.3%の大幅増となったが、前年同月比はマイナス 4.8%の減少となった。

3. うち織物類

- 綿織物の輸入実績は、面積ベースで前月比 11.3%減、前年同月比は 4 ヶ月連続減少の 17.8%のマイナスとなった。これは昨年 8 月以降 5 ヶ月に亘り月ベース 4,000 万 SM 以上の高水準

輸入が行なわれた反動と、今年に入り製品輸入の増加傾向による綿織物需要の落ち込みによるものと思われる。国別で前月に比較すると首位の中国が 11.5%、2位のインドネシア 23.0%、3位のパキスタンも 7.9%の減となり主要国が軒並みマイナスとなった。品種別にみてもポプリン、金巾、粗布・細布の 3 大商品は 9.3%、20.5%、16.1%それぞれ減少となった。

- ▶ 毛織物の輸入実績は、面積ベースで前年同月比 12.1%増加し、3ヶ月連続の増加となった。中国からの輸入が同 26.0%増、イタリアからの輸入が 1.8%増と引き続き上位 2ヶ国が共に増加したが、前月同様に第 3位のイギリスからの輸入は同 49.3%の大幅減となった。品種別では、紡毛織物が同 1.6%減と 10ヶ月ぶりに増加した前月から再び減少、主力の梳毛織物は同 14.2%増と 3ヶ月連続で増加した。
- ▶ 人織織物の輸入実績は、面積ベースで人織(長)織物が前月比 4.5%の減となったものの、前年同月比は 1.0%の微増ながら 18ヶ月連続のプラスとなった。品目別に前月に比較すると、主力商品のポリエステル織物は中国品の価額競争力と品質の向上で大幅増となったことにより 7.0%のプラスとなったものの、ナイロン織物が 25.8%、ポリプロピレン等其他織物も 21.4%の減少となった。一方人織(短)織物は主力の中国、インドネシアからのポリエステル織物の T/C織物が、中国からの輸入が大きく伸びたことにより 13.2%の増、ふすま、ガムテープ用のスフ織物も増加したことで、全体では前月比が 20.9%の増となったが、前年同月比は前年が高水準輸入であったこともあり約 1割近く減少となった。

4. うち衣類

ニット製衣類が対前年同月比(枚数)で 5.4%増、布帛製衣類も同 7.9%増、身の廻り品も重量ベース 5.3%増となり、衣類計で重量ベース 4.5%増となった。ニット製衣類、布帛製衣類、身の廻り品ともに 2ヶ月連続で増加、衣類計も 2ヶ月連続での増加となった。

主要国別に見ると

- ▶ 中国は対前年同月比(枚数)でニット製衣類が 6.0%増加し 2ヶ月連続で増加、布帛製衣類も 7.2%増加し 2ヶ月連続で増加、身の廻り品も重量ベース 6.5%増で 2ヶ月連続の増加となった。今年 1~4月の衣類計(重量)のシェアは 90.6%(金額ベースでのシェアは 81.8%)。
- ▶ 韓国はニット製衣類が同 13.9%増加、布帛製衣類は同 78.9%増となり 12ヶ月連続で 1.5倍を超える大幅増加となった。ニット製衣類が 2ヶ月連続で増加、布帛製衣類は 13ヶ月連続で増加した。
- ▶ イタリアはニット製衣類が同 15.2%減と 16ヶ月連続で減少、布帛製衣類も同 11.4%減と 11ヶ月連続で減少。

- ▶ ベトナムはニット製衣類が同 0.9%減と 2 ヶ月連続で減少、布帛製衣類は同 5.7%増と 7 ヶ月連続で増加した。
- ▶ 商品別には、ニット製衣類ではスーツ、ジャケット、ズボン、ドレス、スカート、アウターシャツ、セーターが増加、コート、アンサンブル、スポーツウェア、下着類が減少。中でも、ドレスは対前年同月比（枚数）87.6%の大幅増となった。布帛製外衣類では紳士用が同 8.6%増、婦人用も同 10.6%増加した。紳士用では、ジャケット、ズボン、下着類が増加、コート、スーツは減少、婦人用は、コート、スーツ、ジャケット、ドレス、スカート、ズボン、ブラウスが增加、アンサンブル、下着類が減少となった。

前月は数量が 7.2%の増加、金額は円ベースで 21.6%の増加、ドルでも 9.1%の増加となったが、今月は数量が 1.2%の増加、金額は円が 15.1%の増加、ドルも 5.5%の増加となり、前月と比べると増加幅が縮小したものの引き続き増加となった。

夏物衣料商戦が本格化しているが、そのスタートとなる 5 月は関東地方を中心に天候不順で週末に雨天が多く、客足が鈍り低調であった。昨年は「クールビズ」効果もありメンズ市場は活況だったが、2 年目を迎え昨年同様の盛り上がりを期待し各社様々な企画で消費者にアピールしているが、その結果も天候に影響されるところが少なくない。



◎ 2006 年 1～4 月の繊維品貿易・輸出は高率の伸びを維持、輸入も大幅な増加推移

【輸 出】

—24%増の 368 億 639 万ドルと高率の伸びを維持、但し欧米向の伸びは鈍化—

新たに欧米向けに規制枠が設定され、その動向が注目される、2006 年度の中国の繊維輸出であるが、1～4 月の輸出は前年同期比 24%増と全体として依然高率の伸びを維持している。

単月での伸びを見ると、1 月の 24%増、2 月 4%増、3 月 36%増、4 月 27%増と、2 月に一度鈍化したが、それ以外は依然高い伸びを記録している。

地域別には、東アジアがシェア 44%（同 24%増）、ヨーロッパが 23%（同 31%増）、北米が 14%（同 5%増）、中米が 3%（同 56%増）、南米が 2%（同 38%増）、アフリカが 5%（同 28%増）、大洋州が 2%（同 13%増）の市場構成となっている。

<地域別、国別輸出状況>

国別では、1 位日本（59 億 2,816 万ドル：11%増）、続いて EU（54 億 1,475 万ドル：11%

増)、香港(50億5,713万ドル:22%増)、米国(44億9,031万ドル:1%増)、韓国(16億174万ドル:46%増)、ロシア(10億5,766万ドル:43%増)、アラブ首長国(7億6,867万ドル:19%増)、オーストラリア(7億6,264万ドル:12%増)、カナダ(7億2,358万ドル:38%増)、シンガポール(5億5,232万ドル:87%増)の順で、この10大市場で輸出全体の72%のシェアを占めている。

昨年は枠が撤廃されたEU、米国向けが衣料品を中心に、特に突出した伸びとなったが、今年はEU、米国向けに枠が新たに設定されたこともあり、両国への伸びは大幅に鈍化し、代わって、韓国、香港、シンガポール等の東アジア、ロシア、カザフスタン等の旧東欧諸国、アラブ首長国、サウジアラビアの西アジア諸国、中南米諸国等が大きく伸びているのが特徴的な傾向である。

<品目別輸出状況>

品目別では、まず、中国の繊維品輸出全体の60%を占める最大輸出品目の衣料品及び同付属品は、欧米向けの伸びが昨年に比べ減速しているにも拘らず、東アジア諸国等が伸び、27%増の221億5,256万ドルと大幅な伸びを維持している。

内容的には、ニット製の衣料品及び同付属品が38%増の104億7,853万ドルと大きく伸び、また布帛製衣料品及び同付属品も18%増の116億7,603万ドルと高い伸びを維持している。

衣料品について主要輸出先をみると、ニット製衣料品は、トップ市場は日本(22億5,676万ドル:16%増)、続いて香港(12億4,886万ドル:62%増)、EU(12億1,143万ドル:4%減)、米国(8億7,522万ドル:19%減)、ルーマニア(5億8,966万ドル:661%増)、ロシア(4億7,784万ドル:125%増)、韓国(4億4,777万ドル:78%増)、オーストラリア(3億3,657万ドル:9%増)の順となっており、米国、EUが昨年の激増もあり、減少推移となっており、他方東アジアの香港、韓国また東欧のロシア、ルーマニア向け等が激増しているのが注目される。

また、布帛製衣料品の輸出先は1位が日本(26億6,178万ドル:7%増)、EU(22億3,005万ドル:18%増)、米国(18億6,054万ドル:2%減)、香港(11億7,693万ドル:14%増)、韓国(5億3,160万ドル:50%増)、ロシア(3億4,616万ドル:横ばい)の順で、ここでも、昨年に比べ、米国、EUの後退、韓国、香港向けの増加が目立っている。

織物類の輸出は、太宗の綿織物、また合繊短繊維織物が好調に推移し、ポリエステル長繊維織物は伸び悩んでいるが、全体として、数量で7%増の54億5,691万メートル、金額で10%増の50億8,429万ドルと数量、金額共に順調に推移した。

糸類の輸出は、合繊長繊維糸、特にポリエステル長繊維糸の増加が著しく、また太宗の綿糸も大幅に増加しており、全体として数量で28%増の53万4,163トン、金額で25%増の18億5,688万ドルと、数量、金額共に好調な推移となっている。

綿類の輸出も、合繊綿、スフ綿の輸出が大きく伸び、数量で26%増の14万5,928トン、金額で15%増の4億2,859万ドルと規模は未だ小さいが、好調に推移している。

2006年4月の中国の繊維品輸出入状況

単位:1000ドル

	輸 入				輸 出					
	2005年実績		2006年1月～4月		2005年実績		2006年1月～4月		前年比	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
繊維品合計		23,446,081		8,515,266	124	36,806,390	126	115		
原料(綿)合計	TON	4,416,112	6,817,524	2,202,390	128	428,590	180	159		
スフ綿	TON	164,419	467,136	39,405	113,734	20,020	131	131		
合繊綿	TON	835,306	1,381,998	230,633	392,403	128,289	133	132		
(ポリエステル)	TON	346,184	423,153	93,118	113,986	86,962	249	303		
(アクリル)	TON	464,623	878,156	130,146	251,703	440	128	125		
糸合計	TON	1,660,050	4,042,957	579,869	1,412,155	534,163	130	128		
人絹糸	TON	26,236	78,212	9,594	27,205	28,057	127	130		
スフ糸	TON	26,879	89,390	9,421	31,588	10,620	159	146		
合繊長繊維糸	TON	616,570	1,543,903	192,469	495,497	171,726	165	152		
(ナイロン)	TON	251,020	662,585	89,840	244,261	30,815	113	117		
(ポリエステル)	TON	295,494	522,692	85,310	155,694	120,479	121	129		
合繊短繊維糸	TON	149,671	376,436	40,970	109,483	114,523	107	110		
綿糸	TON	793,656	1,697,154	314,941	684,163	178,270	79	109		
繊維品合計	千LM	4,638,058	6,009,460	1,289,873	1,696,825	5,456,908	92	94		
絹織物	千LM	45,693	117,096	11,065	31,408	68,031	92	86		
人絹織物	千LM	82,694	122,550	20,173	36,110	12,992	111	119		
スフ織物	千LM	58,124	100,319	14,011	29,499	316,915	101	94		
合繊長繊維織物	千LM	2,016,102	2,029,732	560,202	557,291	1,916,399	122	119		
(ナイロン)	千LM	660,899	585,866	168,535	161,678	86,482	100	91		
(ポリエステル)	千LM	912,650	1,028,690	283,261	279,916	1,601,169	116	131		
合繊短繊維織物	千LM	695,082	792,728	187,222	221,934	1,164,594	111	117		
綿織物	千LM	1,564,514	2,159,441	447,645	667,143	1,854,166	96	96		
毛織物	千LM	70,407	535,575	12,494	94,109	26,861	128	135		
不織布	TON	135,081	490,543	46,554	172,257	60,413	103	98		
タイヤコード織物	TON	18,313	71,770	5,806	22,997	24,877	131	132		
コーテッド織物	TON	264,082	1,025,710	79,256	338,785	176,280	138	138		
ニット生地	TON	460,587	1,879,207	151,292	613,532	322,051	138	138		
ニット製衣料			695,240		208,775	10,478,527	118	118		
布帛製衣料			816,218		276,188	11,674,033	125	125		
その他			1,597,452		526,297	14,941,986				

出所:中国海関統計

【輸 入】

—輸入も 28%増の 85 億 1,527 万ドルと大幅な増加推移—

繊維品輸入は、織物は減少しているが、綿類で国内の綿花不足から特に綿花が激増していることもあり、全体として 28%増の 85 億 1,527 万ドルと大幅な伸びとなっている。

この結果、1～4月の中国の繊維品貿易収支黒字額は前年同期比 23%増の 282 億 9,112 万ドルとなっている。

<地域別、国別輸入状況>

地域別では、東アジアがシェア 65%（前年同期比：10%増）を占め、西アジアが 4%（同 135%増）、ヨーロッパが 6%（同 10%増）、北米が 14%（同 131%増）、中米が 0%（同 30%減）、南米が 2%（同 208%増）、アフリカが 4%（同 312%増）、大洋州が 5%（同 21%増）の市場構成となっている。

国別では、1位米国（12 億 847 万ドル：140%増）、続いて日本（10 億 8,549 万ドル：7%減）、台湾（10 億 7,253 万ドル：1%増）、韓国（8 億 5,809 万ドル：7%減）、香港（5 億 4,505 万ドル：13%増）、EU（4 億 8,464 万ドル：9%増）、インド（4 億 862 万ドル：472%増）、オーストラリア（3 億 8,504 万ドル：20 %増）、ウズベキスタン（2 億 6,912 万ドル：136%増）、パキスタン（2 億 3,884 万ドル：38%増）の順で、この 10 大市場で全体の輸出の 77%のシェアを占めている。

<品目別輸入状況>

品目別輸入を見ると、綿関係では、合繊は低調な推移となったが、天然繊維が米国よりの綿花を中心に著増しており、全体として、数量で 104%増の 220 万 2,390 万トン、金額で 88%増の 32 億 4,746 万ドルと大幅な増加となった。

糸関係は、太宗の綿糸が大きく増え、合繊長繊維糸はほぼ横ばいで推移しているが、全体として数量で 14%増の 57 万 9,869 万トン、金額で 15%増の 14 億 1,2167 万ドルと高水準の増加となっている。

織物類は、綿織物、合繊長繊維織物等各品目とも総じて低調な推移となり、トータルで数量では 8%減の 12 億 8,987 万メートル、金額で 6%減の 16 億 9,683 万ドルとなった。

その他品目では、ニット生地が金額で 9%増の 6 億 1,353 万ドル、また衣料品は、未だ額は僅少であるが、ニット製衣料品が 47%増の 2 億 876 万ドル、布帛製衣料品が 20%増の 2 億 7,619 万ドルと高い伸び率となっている。



◎ 2006年第1四半期の繊維品貿易・輸出入共に堅調に推移

香港の2006年第1四半期（1-3月）の繊維品貿易は、輸出は前年比5%増の85億6,794万ドル、輸入は1%増の66億8,001万ドルと、輸出入共に揃って堅調な増加推移となった。

輸出

地域別の輸出先をみると、全体の44%を占める東アジア向けは9%増の37億7,806万ドル、25%を占める北米が2%減の21億4,434万ドル、23%を占めるヨーロッパが4%増の20億1,123万ドルで、この3地域で全体の93%を占めている。

主要国別輸出では、1位の中国は12%増の24億7,706万ドルと2桁の増加、続く米国が3%減の19億5,050万ドル、EUが4%増の19億1,204万ドルと欧米市場は明暗を分けている。以下日本が7%減の3億6,895万ドル、カナダが19%増の1億9,383万ドル、オーストラリアが1%増の1億6,292万ドルの順となっている。

品目別輸出では、輸出全体の65%を占める最大輸出品目の衣料品は、ニット製衣料品が5%増の25億3,652万ドル、布帛製衣料品が3%増の30億92万ドルで、共に堅調に推移している。

織物類の輸出は、最大品目の綿織物が数量、金額共に減少し、合繊長繊維織物は数量増の金額減なり、織物全体として、数量で1%減の17万9,141トン、金額で5%減の10億4,713万ドルとなった。

原料関係では、糸類は、最大輸出品目の綿糸は数量・金額共に大幅な増加を記録し、合繊長繊維糸も健闘し、数量で19%増の23万5,336トン、金額で17%増の7億8,458万ドルとなった。また、綿類の輸出は、数量で9%増の3万8,528トン、金額で4%減の4,734万ドルとなった。

輸入

輸入については、地域別では、91%と圧倒的なシェアを占める東アジアからの輸入が1%増の61億818万ドル、シェア7%のヨーロッパが7%増の4億4,830万ドルで、両市場からの輸入が98%を占め、共に増加推移となっている。

国別では、1位が中国で2%減の45億8,678万ドル（シェア69%）、2位は香港（注：香港の統計では、第三国（ほとんどが中国と思われる）に原材料を輸出し完成品を輸入した場合、その付加価値部分は、中国からの輸入となるが、原材料輸出部分は香港の輸入として分類される。）で55%増の4億5,824万ドル、3位はEUで5%増の4億1,660万ドル、4位は台湾で4%

2006年1～3月の香港の繊維品輸出入状況

単位:1000ドル

	輸				入						
	2005年実績		2006年(1～3)		2005年実績		2006年(1～3)		前年比		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
繊維品合計											
原料(綿)合計	TON	39,606,760	147,993	201,502	38,528	8,567,944	70,579	6,680,012	134	124	101
スフ綿	TON	7,119	23,864	1,565	47,335	310,947	3,886	15,502	151	176	65
合繊綿	TON	64,265	105,776	12,056	21,405	113,580	16,257	22,707	63	55	55
(ポリエステル)	TON	53,737	66,587	9,984	13,086	79,735	14,243	16,248	59	55	138
(アクリル)	TON	6,117	14,865	1,178	2,859	12,979	1,281	2,828	133	113	78
糸合計	TON	963,995	3,522,889	235,336	784,579	4,037,650	262,949	905,267	116	113	102
人絹糸	TON	8,531	52,685	1,815	8,866	62,801	1,965	10,152	86	78	98
スフ糸	TON	20,778	117,533	4,202	22,399	142,437	4,687	26,644	98	102	125
合繊長繊維糸	TON	151,072	602,716	37,471	135,033	658,052	41,536	148,020	112	98	110
(ナイロン)	TON	73,264	272,964	18,694	66,447	295,544	21,188	73,009	140	125	110
(ポリエステル)	TON	48,579	110,415	13,491	27,746	130,345	14,607	31,900	114	110	105
合繊短繊維糸	TON	97,818	418,844	19,300	78,687	441,876	22,821	89,316	98	105	126
綿糸	TON	641,804	1,812,539	165,612	459,929	1,914,550	183,448	497,261	121	126	100
織物合計	TON	847,309	5,178,152	179,141	1,047,132	4,980,199	180,737	1,030,065	103	100	116
絹織物	TON	3,666	136,909	745	28,396	176,462	913	42,897	95	116	83
人絹織物	TON	10,981	111,415	1,349	14,181	141,879	2,283	21,972	83	83	97
スフ織物	TON	5,205	49,150	867	8,424	56,935	1,107	10,787	94	97	103
合繊長繊維織物	TON	160,898	843,773	33,281	159,986	1,007,203	39,222	200,276	116	103	125
(ナイロン)	TON	60,822	267,836	15,515	56,951	347,339	18,033	80,656	143	125	90
(ポリエステル)	TON	75,674	412,199	13,740	74,113	480,555	16,662	87,247	100	90	98
合繊短繊維織物	TON	68,062	401,085	14,170	75,426	436,522	14,198	81,486	102	98	99
綿織物	TON	562,304	3,227,765	120,488	677,351	2,707,126	114,058	579,373	100	99	74
毛織物	TON	6,167	146,633	554	14,254	207,825	929	25,141	82	74	107
不織布	TON	23,488	165,232	5,923	41,928	171,608	7,062	40,997	114	107	84
タイヤコード織物	TON	3,160	14,588	629	2,896	13,552	555	2,209	86	84	107
コーテッド織物	TON	105,696	474,347	23,862	106,184	513,200	26,808	121,902	92	107	108
ニット生地	TON	520,339	2,908,245	116,701	647,993	2,728,795	117,589	606,437	107	108	97
ニット製衣料			13,327,876		2,536,520	9,245,559		1,743,798		97	98
布帛製衣料			12,260,157		3,000,915	8,027,108		1,854,677		98	99
その他			1,553,771		352,462	1,329,118		286,935		99	

出所:香港通関統計

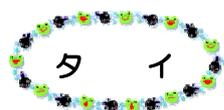
減の 3 億 5,109 万ドル、5 位は日本で 3%減の 1 億 8,388 万ドル、6 位は韓国で 19%減の 1 億 5,103 万ドルとなっている。

品目別輸入では、全体の 54%を占める最大品目の衣料品は、ニット製衣料品が 3%減の 17 億 4,380 万ドル、布帛製衣料品が 2%減の 18 億 5,468 万ドルと何れも微減推移となっている。

その他品目では、織物類の輸入は、最大品目の綿織物はほぼ横ばい推移、合繊長繊維織物が増加推移となり、数量で 3%増の 18 万 737 トン、金額で横ばいの 10 億 3,007 万ドルとなった。

原料関係では、糸類の輸入は、最大品目の綿糸が大幅に伸び、合繊長繊維糸は数量増の金額減となったが、全体として、数量で 16%増の 26 万 2,949 トン、金額で 13%増の 9 億 527 万ドルとなった。

また、綿類の輸入は、合繊綿が大幅な減少推移となったが、綿花を中心に天然繊維が大きく伸び、数量で 34%増の 7 万 579 トン、金額で 24%増の 8,773 万ドルとなった。



◎ 2006 年第 1 四半期の繊維品貿易・輸出は好調に推移、輸入は微減推移

【輸 出】

—10%増の 16 億 9,988 万ドルと好調に推移—

タイの通関統計によると、2006 年第 1 四半期のタイの繊維品輸出は、クオータ・フリー後、再び中国品の一部に欧米で枠が設定されたこともあり、その動向が注目されているが、前年同期比 10%増の 16 億 9,988 万ドルと好調に推移している。

<品目別輸出>

これを品目別に見ると、タイの最大輸出品目で全体の繊維品輸出の 52%を占める衣料品は、ニット製衣料品が最大市場の米国、EU 向けの増加により、20%増の 4 億 9,027 万ドルと大幅な伸びとなり、布帛製衣料品も 5%増の 3 億 9,248 万ドルと堅調な推移となっている。

織物類は、太宗の綿織物、合繊短繊維織物、合繊長繊維織物が共に順調に推移し、数量で 5%増の 3 万 8,778 トン、金額で 7%増の 2 億 2,430 万ドルとなった。

内訳は、最大品目の綿織物が数量で 1%増の 1 万 4,138 トン、金額で 9%増の 8,904 万ドル、合繊短繊維織物が数量で 7%増の 1 万 2,142 トン、金額で 4%増の 6,428 万ドルとなった。また、合繊長繊維織物は数量で 6%増の 7,966 トン、金額 9%増の 4,572 万ドルとなった。

一方、原料関係の輸出は、綿類は数量で 10%増の 9 万 9,971 トン、金額で 9%増の 1 億 2,635 万ドルとなった。中心品目の合繊綿は、ポリエステル綿が数量で 11%増の 6 万 824 トン、

金額で6%増の6,991万ドル、一方、アクリル綿は数量で19%増の1万6,633トン、金額で20%増の2,941万ドルと共に好調に推移した。

糸類の輸出は、数量で5%減の8万3,107トン、金額で2%増の2億168万ドルと数量減の金額増となった。太宗の合繊長繊維糸は、ナイロンは堅調に推移したが、ポリエステルが大幅に減少し、数量で16%減の4万3,280トン、金額で10%減の8,476万ドルとなった。その他の糸では、綿糸が数量で5%増の1万3,834トン、金額で6%増の3,893万ドル、合繊短繊維糸が数量で12%増の1万5,945トン、金額で16%増の4,089万ドルとなった。

<市場別輸出>

市場別輸出としては、州別では、北米（シェア：33%）が12%増、東アジア（シェア：32%）が4%増、ヨーロッパ（シェア：23%）が18%増となっており、この3大市場で全体の88%を占めており、何れも増勢で推移している。

国別では、米国、EU、日本、中国、香港、アラブ首長国、インドネシア、ベトナムの順で、この8カ国で全繊維品輸出の71%を占めている。このうち、最大市場の米国が14%増の5億3,297万ドル、EUが16%増の3億4,267万ドル、日本が4%減の1億590万ドル、中国が10%減の7,027万ドル、香港が3%減の4,363万ドル、アラブ首長国が24%増の4,935万ドル、ベトナムが13%増の3,142万ドル、インドネシアが3%減の3,187万ドルとなっている。その他主要輸出国は、バングラデッシュ（2,798万ドル：横ばい）、マレーシア（2,761万ドル：9%増）、インド（2,651万ドル：6%増）、フィリピン（2,379万ドル：5%減）となっている。

【輸 入】

—1%減の6億9,318万ドルと微減推移—

輸入は、輸出の増勢とは対照的に、1%減の6億9,318万ドルと微減推移となっている。

<商品別輸入>

綿類の輸入は天然繊維原料が主体であるが、数量で23%減の11万7,551トン、金額で21%減の1億6,714万ドルと低調な推移となっている。

糸類の輸入は合繊長繊維糸主体に数量で1%増の2万4,141トン、金額で1%減の9,511万ドルとほぼ横ばい推移となっている。

織物類の輸入は、主要品目では、合繊長繊維織物は増加したが、綿織物が数量で横ばい、金額で減少、その他の織物も低調で、全体として数量で2%減の2万6,861トン、金額で3%減の1億4,276万ドルと数量、金額共に減少推移となった。

一方、ニット生地の輸入は、数量で21%増の1万1,730トン、金額で14%増の8,681万ドルと2桁の増加推移となった。

また、衣料品の輸入は、ニット製衣料品が52%増の2,221万ドル、布帛製衣料品が41%増の3,610万ドルと、中国、EUからの輸入を中心に、額は未だ小さいが大幅な伸び率となっている。

2006年1～3月のタイの繊維品輸出入状況

	輸 入				輸 出				前年比
	2005年実績		2006年(1～3)		2005年実績		2006年(1～3)		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
繊維品合計									
原料(綿)合計	TON	2,929,876	TON	2,929,876	TON	1,699,878	TON	1,699,878	99
スフ綿	TON	590,081	TON	787,879	TON	478,104	TON	478,104	110
スフ綿	TON	5,768	TON	20,339	TON	62,971	TON	62,971	109
合繊綿	TON	48,379	TON	77,667	TON	370,538	TON	370,538	100
(ポリエステル)	TON	25,457	TON	35,414	TON	274,538	TON	274,538	110
(アクリル)	TON	18,594	TON	32,332	TON	94,493	TON	94,493	106
糸合計	TON	97,023	TON	399,938	TON	812,398	TON	812,398	120
人絹糸	TON	2,534	TON	10,269	TON	11,302	TON	11,302	95
スフ糸	TON	224	TON	1,130	TON	61,363	TON	61,363	102
合繊長繊維糸	TON	72,910	TON	265,713	TON	375,075	TON	375,075	117
(ナイロン)	TON	31,585	TON	128,745	TON	79,396	TON	79,396	143
(ポリエステル)	TON	33,541	TON	80,337	TON	249,204	TON	249,204	90
合繊短繊維糸	TON	6,901	TON	33,441	TON	160,863	TON	160,863	104
綿糸	TON	12,046	TON	62,943	TON	149,332	TON	149,332	84
織物合計	TON	112,406	TON	645,665	TON	901,541	TON	901,541	116
絹織物	TON	103	TON	4,574	TON	14,171	TON	14,171	105
人絹織物	TON	1,479	TON	12,490	TON	2,404	TON	2,404	107
スフ織物	TON	22,319	TON	56,828	TON	75,099	TON	75,099	103
合繊長繊維織物	TON	25,970	TON	146,343	TON	192,483	TON	192,483	106
(ナイロン)	TON	3,828	TON	29,708	TON	2,674	TON	2,674	109
(ポリエステル)	TON	14,189	TON	80,700	TON	91,101	TON	91,101	77
合繊短繊維織物	TON	16,516	TON	88,842	TON	268,645	TON	268,645	96
綿織物	TON	43,116	TON	286,971	TON	345,664	TON	345,664	104
毛織物	TON	1,322	TON	32,741	TON	855	TON	855	109
不織布	TON	16,538	TON	67,329	TON	85,854	TON	85,854	35
タイヤコード織物	TON	21,155	TON	77,858	TON	78,468	TON	78,468	102
コーテッド織物	TON	27,689	TON	44,365	TON	44,953	TON	44,953	96
ニット生地	TON	47,784	TON	357,194	TON	155,569	TON	155,569	107
ニット製衣料					1,902,003		490,271		118
布帛製衣料					1,580,086		392,477		133
その他					679,758		173,710		120

(注)2004年の合繊綿・合繊綿アクリルの数量は疑義があるが、タイ統計原本どおり。

単位:1000ドル

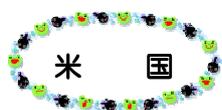
出所:タイ通関統計

<市場別輸入>

市場別輸入としては、州別では東アジアが 67%と圧倒的なシェアを占め 6%増、続いて欧州が 12%を占め 9%増と何れも増加しているが、シェア 9%の北米が 40%減と大きく後退しているのが目立っている。

国別では、中国、EU、台湾、日本、米国、香港、オーストラリアが 7 大輸入先で全繊維品輸入の 77%を占めている。最大輸入先の中国からの輸入は 17%増の 1 億 6,872 万ドル、続く EU が 18%増の 7,527 万ドル、台湾が 18%増の 7,986 万ドル、日本が 9%減の 6,985 万ドル、米国が 40%増の 6,281 万ドル、香港が 6%増の 3,987 万ドル、オーストラリアが 95%増の 3,618 万ドルの順で、日本、米国を除いて増加推移となっている。

その他主要輸入先は、韓国 (2,654 万ドル：16%減)、インドネシア (2,558 万ドル：1%減) 等となっている。



◎ 2006 年 4 月の繊維品輸入、3 カ月ぶりに増加

2006 年 4 月の米繊維品輸入は、アパレルが 3 カ月連続の減少となったが、ノン・アパレル（糸、織物、その他繊維製品）が大幅に増加し、全体で 3%増と 3 カ月ぶりに増加となった。また、2006 年 1～4 月の輸入は、2 月と 3 月のマイナスが響いて、1%の微増となっている。

米 国 の 繊 維 品 輸 入 推 移

単位：100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合 計	
	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,708	▲0.7	16,103	0.4	32,812	▲0.2
2002年	21,033	25.9	17,256	7.2	38,288	16.7
2003年	23,363	11.1	18,864	9.3	42,227	10.3
2004年	26,985	15.5	19,951	5.8	46,936	11.2
2005年	28,829	6.8	22,010	10.3	50,839	8.3
2006年	9,529	4.2	6,466	▲3.2	15,994	1.1
1月	2,502	10.9	1,698	3.2	4,200	7.6
2月	2,152	▲2.5	1,587	▲9.8	3,739	▲5.7
3月	2,361	0.9	1,687	▲2.4	4,048	▲0.5
4月	2,514	7.5	1,494	▲3.6	4,007	3.1

注：前年比は増減、▲は減少。 出所：米商務省（DOC）

【4月の輸入】

米商務省が発表した 2006 年 4 月の米繊維品輸入は、40 億 700 万 SME（平方メートル換算）

で前年同月比 3.1%増となり、3 カ月ぶりの増加となった。4 月の輸入のうち、アパレルは 3.6%減と 3 カ月連続の減少となったが、ノン・アパレルは 7.5%の大幅増となり、全体の増加に貢献した。

地域別輸入では、太宗供給国の中国は 8.6%増の 13 億 4,600 万 SME と、2 月の大幅減(10.6%減)、3 月の若干増(2.1%増)から大きく回復した。その他では、韓国 17.5%増、インドネシア 27.2%増、ベトナム 42.5%増、パキスタン 16.6%増、インド 18.6%増と、東アジア諸国が軒並み二桁の大幅増となった。

一方、NAFTA(北米自由貿易協定)パートナーのカナダとメキシコは共に 20.3%減、カリブ海沿岸諸国(CBI)は 25.4%減と、米近隣諸国は低迷している。

【1～4 月の輸入】

2006 年 1～4 月の米繊維品輸入は 159 億 9,400 万 SME で前年同期比 1.1%の微増にとどまり、前年 1～4 月期の 8.8%の大幅増から大きく減速している。本年 1～4 月の輸入のうち、ノン・アパレルは 4.2%増、アパレルは 3.2%減と、明暗を分けている。

1～4 月の主要地域別輸入状況は、以下の通り。

- 主要地域別輸入では、いわゆるビッグ 4(中国、韓国、台湾、香港)及びアセアン、更にその他地域のパキスタン、インド、バングラデシュといった東アジア諸国が伸びているが、一方米近隣の NAFTA パートナーのメキシコとカナダ、及び CBI は生彩を欠いている。
- ビッグ 4 からの輸入は 5.1%増と堅調に推移している。このうち、ビッグ 4 の太宗国の中国は 4.8%増で、米繊維輸入規制により、前年同期の 45.0%の激増から大きく鈍化している。それでも、中国からの輸入は全体の 31%を占め、他の供給国を圧倒している。
その他のビッグ 4 構成国では、韓国と台湾は織物を中心にそれぞれ 7.7%、8.3%の増加となったが、香港は逆に織物の不振で 4.1%減となった。
- アセアンからの輸入では、主力のインドネシアが 22.0%増、フィリピンが 12.8%増、更に、新興のカンボジアが 30.6%増、ベトナムが 30.7%増と、いずれも二桁の大幅増となり、またタイも 2.1%増と堅調に推移したことから、アセアン全体としては 17.4%増と大きく伸びた。なお、アセアンからの輸入は衣料品が中心で、全体の 72%を占めている。
- 一方、NAFTA パートナーからの輸入では、衣料品中心のメキシコは 10.6%減、繊維品主体のカナダは 16.7%減となり、両国合わせて 13.4%の大幅減となった。
また、CBI からの輸入は、主要国のホンジュラス、エルサルバドル、ドミニカ共和国がいずれも二桁の減少となり、全体で 16.6%の大幅減となった。CBI からの輸入は、アパレルが 97%と殆どを占めている。
- EU(15 カ国)からの輸入は、主力のイタリーとドイツが共に織物の不振でそれぞれ 21.9%、

8.5%の大幅な減少となり、全体で11.3%減となった。

- 上記の主要地域に含まれない「その他地域」からの輸入では、パキスタンが17.7%、インドが13.8%、バングラデシュが13.6%のそれぞれ大幅増となった。その他地域でも、東アジア諸国からの輸入が「ポスト・クォータ」のメリットを活かして活発に推移している。

米国の繊維品輸入推移（主要地域・国別）

単位：100万SME、%

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年 1-4月	前年 同期比
全世界	32,812	38,288	42,227	46,936	50,839	15,994	1.1
N A F T A	7,558	7,722	7,238	7,373	6,892	2,016	▲13.4
メキシコ	4,290	4,335	3,926	4,101	3,883	1,137	▲10.6
カナダ	3,268	3,387	3,312	3,272	3,009	879	▲16.7
C B I	3,704	3,830	4,046	4,168	4,169	1,116	▲16.6
ホンジュラス	1,032	1,099	1,165	1,209	1,262	330	▲14.3
エルサルバドル	768	817	895	895	897	191	▲34.3
ドミニカ共和国	773	743	758	772	725	191	▲19.1
ビッグ4	5,911	9,348	12,633	16,128	20,595	6,168	5.1
中国	2,211	4,963	8,288	11,662	16,766	4,946	4.8
韓国	1,383	2,032	2,097	2,301	2,028	688	7.7
台湾	1,224	1,391	1,356	1,302	1,083	353	8.3
香港	1,092	962	892	862	721	179	▲4.1
アセアン	4,390	4,766	4,980	5,140	5,145	1,858	17.4
タイ	1,308	1,316	1,098	1,114	1,052	342	2.1
インドネシア	1,165	1,215	1,151	1,275	1,354	531	22.0
フィリピン	916	817	794	711	643	225	12.8
ベトナム	33	358	827	905	950	369	30.6
カンボジア	389	474	561	673	740	274	30.7
E U (15カ国)	1,868	2,055	2,059	2,063	1,912	605	▲11.3
イタリア	521	518	533	462	385	115	▲21.9
ドイツ	457	551	484	479	453	147	▲8.5
その他	9,381	10,567	11,272	12,064	12,126	4,231	5.1
パキスタン	2,189	2,537	2,690	2,970	3,291	1,183	17.7
インド	1,250	1,545	1,666	1,915	2,335	888	13.8
バングラデシュ	1,169	1,150	1,110	1,109	1,314	490	13.6
トルコ	871	1,068	1,026	982	844	239	▲20.2

◎ 2006年5月の米大手小売店販売、予想外に堅調

米国の国際ショッピング・センター協会（ICSC）が纏めた「米チェーン・ストア販売動向レポート」によると、米大手小売店の2006年5月の売上高は前年同月比（既存店比、以下同じ）4.1%増となり、2年ぶりの高率となった前月の6.6%増を下回ったものの、前年同月の2.9%増を大きく上回り、堅調に推移した。

米小売アナリストは、「ガソリン高騰や消費者信頼感指数の低下(5月は、4月の109.8から、103.2に下落)にもかかわらず、暑い天候の下で、消費者の夏物商品の購買が進み、5月の大手小売店の販売は4%強と予想外に伸びた」と分析している。

米大手小売店の売上高の伸び率推移

単位：%

年月	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
1	5.7	4.8	5.2	1.8	5.9	3.6	5.0
2	6.0	3.1	6.2	0.9	6.8	4.9	3.2
3	2.1	1.7	6.4	-0.2	6.8	4.1	1.9
4	7.9	3.8	1.6	3.1	3.7	2.2	6.6
5	5.0	1.5	3.4	2.0	5.4	2.9	4.1
6	3.7	2.8	5.1	2.4	2.6	5.2	
7	4.4	3.4	2.6	4.2	3.8	3.6	
8	4.2	3.6	1.6	4.9	1.3	3.6	
9	4.3	0.9	1.5	5.8	2.4	4.0	
10	3.8	2.3	3.1	2.4	4.1	4.4	
11	4.0	2.1	0.0	3.3	1.7	3.5	
12	0.7	2.2	1.0	4.3	2.7	3.2	
年間平均	4.0	2.6	3.1	2.9	3.8	3.9	

注：伸び率は前年同月比（既存店比）の増減を示す。

衣料品を主力とするストアの販売状況は、以下の通り。

○ 大手百貨店の5月の販売では、夏物のファッション衣料が良く売れ、高級百貨店のみならず、中級百貨店も殆どが前年同月を上回った。

高級百貨店の販売は、ノードストロムが7.8%増、ニーマン・マーカスが5.4%増と大幅に伸びた。

また、サクスは、全

体では1.1%の微増にとどまったが、女性と男性用コンテンポラリー・アパレル、女性用のインティメートアパレル、ドレス、アクセサリ、ベター・スポーツウェア、男性用服飾品、ブライダル用品がベスト・セール品目であった。

また、中級百貨店では、フェデレーテッドが9.2%増、コールズが3.1%増、ディラードが3.0%増、J.C.ペニーが2.9%増と伸びた。

このうち、J.C.ペニーは、「時期的には母の日(5月14日)近辺の期間を中心に、全ての商品部門が少なくとも一桁台後半の伸び率を記録し、衣料品では特に女性用のドレス、カジュアル・スポーツウェアが好調であった」と説明している。また、ディラードは、「地域では西部、商品ではジュニア用アパレルと家具が全体の平均を上回った」と発表している。

○ 大手衣料品専門店チェーンの販売は、夏物衣料品の需要が伸び、一部を除き、順調に推移した。

若者向け衣料品専門店チェーンは、アメリカン・イーグルが11.0%増、リミテッド・ブランドが7.0%増、アバクロンビー&フィッチが3.0%増と伸びたが、ギャップは6.0%減、パシフィック・サンウェアは2.6%減、エアロポステールは1.1%減となり、明暗が分かれた。

このうち、ギャップに次ぐ大手衣料品専門店チェーンのリミテッド・ブランドは、傘下

小売店では、エクスプレス（男性・女性用衣料品専門店）が 12%減、リミテッド・ストア（女性用衣料品専門店）が 1%減となったが、ビクトリアズ・シークレット（女性用下着専門店）が 16%増、バス・アンド・ボディワークス（バス商品専門店）が 12%増と大きく伸び、アパレル部門のマイナスを補った。

一方、衣料品専門店チェーン最大手のギャップは、引き続き客足が低調で、傘下ストアではバナナリパブリックが 3%増となったが、オールドネイビーは 8%減、ギャップ・ストアは 5%減となり、足を引っ張った。

キャリアウーマン向け衣料品専門店チェーンのアン・テラー・ストアは 12.0%の大幅な増加となった。部門別では、アン・テラー部門（高級衣料品店）が 10%、アン・テラー・ロフト部門（手頃価格衣料品店）が 14%のそれぞれ増加となり、特にアン・テラー部門は 10 カ月連続の増加を記録した。大幅に伸びた商品は、アン・テラー部門ではドレス、スーツ、スカート、布帛トップス、またアン・テラー・ロフト部門では同じくドレス及びスカートに加え、ガウチョ、シティ・ショーツ、フェミニン・ブラウス、ニット・トップスであった。

○ 大手ディスカウント・ストアの 5 月の販売は、ターゲットは 5.7%増と順調に推移したが、ウォル・マートは 2.3%の若干増にとどまった。

このうち、世界最大の小売企業であるウォル・マートの首脳は、「低所得者を中心とする当店顧客にとって、燃料費の高騰は最大関心事であり、イースター以降、顧客の来店回数が減り、購買品目が生活必需商品に集中するなどの影響が出てきており、このため 5 月の販売は若干増にとどまった」と説明している。

米主要小売店の 2006 年 5 月の販売状況

単位：100 万ドル、%

小 売 店 名	売 上 高	
	前年同月比	
<百 貨 店>		
ディラード	534	3.0
フェデレーテッド	2,026	9.2
J. C. ペニー	1,187	2.9
コールズ	1,002	3.1
ニーマン・マーカス	291	5.4
ノードストロム	600	7.8
サクス	231	1.1
<衣料品専門店チェーン>		
アバクロンビー&フィッチ	185	3.0
アメリカン・イーグル	168	11.0
アン・テラー・ストア	217	12.0
エアロポステール	73	-1.1
ギャップ	1,160	-6.0
リミテッド・ブランド	719	7.0
メンズ・ウエアハウス	138	5.0
パシフィック・サンウエア	85	-2.6
<ディスカウント・ストア>		
ターゲット	3,929	5.7
ウォル・マート	26,285	2.3

組合関係の会議と催事

【2006年7月】

輸出入

I. 「繊維の基礎知識研修会」(大阪)開催。

輸出

I. 「第28回書面理事会」執行。

II. 「平成18年度第1回組合運営に関するタスクフォース」開催。

III. 「平成18年度第2回企画委員会」開催。

輸入

I. 「第141回企画委員会」開催。

II. アパレル委員会海外調査ミッション(アイルランド・スコットランド)派遣。

III. 「インテリアライフスタイル展」出展。

IV. 東京・大阪・名古屋で「貿易実区の基礎研修会」開催。

1日(木)～2日(金)

輸出入 (大阪)「繊維の基礎知識研修会」が輸出組合、輸入組合、テキスタイル倶楽部の3団体共催で開催された。参加者は、1日が160名、2日が150名であった。

7日(水)

輸入 (東京)「第67回アパレル委員会」(尾川委員長)が開催され、①正副委員長互選②2006年海外調査ミッション派遣について審議され、情報交換が行われた。引続きミッション参加者による打合せが行われた。

8日(木)

輸入 (東京) 1. 「第63回貿易制度専門委員会」(大迫委員長)が開催され、経済産業省より(1)「経済連携協定・原産地証明書発給手続き」について(2)「WTO・NAMA(非関税障壁関連)交渉におけるEUからの輸出税に関する提案」について説明があった後、①繊維産連「日本製生地表示推進会議(仮称)」発足②「中国・港湾設備保安費用徴収に関する通知」③国土交通省「港湾運送事業法に係る届出料金等の遵守」④経済産業省「平成19年度関税改正要望」について説明と意見交換が行われた。
2. 上記委員会に引続いて「FTA検討会」が開催された。

9日(金)

輸出 (大阪)「第28回書面理事会」が執行され、輸出組合への承継加入申請に係る加入審査について審議の結果、承継加入申請者(東京杉本株式会社)の加入を可決承認した。

輸入 (東京)「貿易実務の基礎・研修会」を終日開催、大谷ジェトロ認定貿易アドバイザーを講師に迎えて、組合員178名が聴講された。

13日(火)

輸入 (東京)「第1回(2006年)組合運営に関するタスクフォース」(神谷議長)が開催され、

①議長互選②FTA③繊維貿易情報センター設置④中国商標法⑤組合の資金運用についてそれぞれ説明と審議が行われた。

14日（水）

輸入（東京）1. 東京ビックサイトで開催の「インテリアライフスタイル展」（14日～16日）に寝具インテリア委員会がブース出展し、委員会各社が展示を行った。
2. 同会場にて「第89回寝具インテリア委員会」（吉田委員長）を開催、①「インテリアライフスタイル展」の出展概要②インドミッションとの懇談会について報告があった。

輸入（名古屋）「貿易実務の基礎・研修会」を終日開催、大谷ジェトロ認定貿易アドバイザーを講師に迎えて、組合員25名が聴講された。

15日（木）

輸入（大阪）「貿易実務の基礎・研修会」を終日開催、大谷ジェトロ認定貿易アドバイザーを講師に迎えて、組合員140名が聴講された。

16日（金）

輸出（大阪）「平成18年度第1回組合運営に関するタスクフォース」（西田議長）が開催され、「2006中国国際服装繊維品博覧会」（大連）への参加及び上海における現地繊維商社会の設置準備について審議が行われた。

17日（土）～25日（日）

輸入（欧州）アパレル委員会海外調査ミッション（アイルランド・スコットランド）（尾川団長）を派遣。

20日（火）

輸入（東京）インドネシア商務省訪日代表団が来所、面談した。

21日（水）

輸出入（大阪）JICA 貿易促進コース研修員が来所、日本の繊維貿易状況、輸出入組合等を説明した。

26日（月）

輸出（大阪）「平成18年度第2回企画委員会」が開催され、平成18年度委員長に梶原俊彦氏（三井物産株式会社）が選任され、組合運営に関するタスクフォースの継続設置について承認を得た後、事務局より①「2006中国国際服装繊維品博覧会」（大連）への参加、②上海における現地繊維商社会の設置準備、③最近の繊維品輸出状況について報告が行われた。

27日（火）

輸出（大阪）。「繊維品輸出荷主連合会（TSA）」の第20回通常総会が開催され、①平成17年度の事業報告書及び収支計算書等、②平成18年度の事業計画（案）、収支予算（案）等について審議の結果、何れも原案通り承認され、新年度役員（理事＝蝶理（株）、新興産業（株）、豊田通商（株）、監事＝NI 帝人商事（株）、（株）野澤組）が選任された。

28日（水）

輸入（東京）「第141回企画委員会」（塘委員長）が開催され、①正副委員長互選②FTA③商品別・機能別委員会委員選こう④組合運営に関するタスクフォース（第7次）設置⑤中国のOEM生産に関する商標⑥繊維貿易情報センター設置⑦組合の資金管理⑧業務報告（アパレル委員会海外調査ミッション、日本製生地表示、最近の輸入動向）についてそれぞれ説明、審議が行われた。

輸出入（東京）経済産業省並びに輸出入組合始め関係団体で「綿製品懇談会」を開催。

7月のスケジュール（7月1日現在）

3日（月）	輸入 （東京）	「第2回（2006）組合運営に関するタスクフォース」
4日（金）	輸出入 （大阪）	「外国為替の基本」講習会
6日（木）	輸出入 （東京）	「繊維の基礎知識研修会」
12日（水）	輸出 （大阪）	「平成18年度第1回保険・受渡委員会」
20日（木）	輸出 （大阪）	「平成18年度第1回中近東市場委員会」
21日（金）	輸入 （東京）	「訪日ポルトガル衣類・報製品工業会」代表来所

◎ 3 運賃同盟、繊維品のスペシャル・レートの適用期間を延長

輸出組合が西アフリカ運賃同盟、セイロン運賃同盟、フィリピン運賃同盟の3運賃同盟宛に繊維品のスペシャル・レートの適用期間延長を要望していたところ、この度、各同盟より2006年7月1日以降6ヶ月間、従来と同じスペシャル・レートを適用する旨、下記の通り回答があった。

1. 西アフリカ運賃同盟

(1) Contract Rate

(単位：US\$)

Commodity	Rate Basis	T/R Rate	TSD Rate		
		Freetown Dakar Conakry Banjul	Cotonou Libreville P. Gentil Pointe Noire Matadi	Monrovia Abidjan Tema Lome Douala	Lagos/Apapa Port Harcourt
Textiles, Piece Goods & Manufactures	M	a) 216.35 b) 226.90	204.20	151.45	142.90
Textiles, Fibers Yarn & Tow	M	c) 196.85	177.15	137.80	106.65

(2) Non-Contract Rate

但し、9月1日以降は、上記(1)が適用される。

(単位：US\$)

Commodity	Rate Basis	T/R Rate	TSD Rate		
		Freetown Dakar Conakry Banjul	Cotonou Libreville P. Gentil Pointe Noire Matadi	Monrovia Abidjan Tema Lome Douala	Lagos/Apapa Port Harcourt
Textiles, Piece Goods & Manufactures	M	a) 239.05 b) 250.70	225.65	167.35	157.90
Textiles, Fibers Yarn & Tow	M	c) 217.50	195.75	152.25	117.85

Note: a) Cotton Piece Goods & Manufactures only

b) Synthetic Piece Goods & Manufactures only

c) Synthetic Yarn only

- (注) ① T/R Rate = Temporary Reduced Rate
 ② TSD Rate = Temporary Special Discount Rate

2. セイロン運賃同盟

Item	Rate
Staple Fiber of Rayon, Acetate and Synthetic	US\$ 59.65 per M3
Textile & Manufactured Goods of Synthetic	US\$ 70.15 per M3
Yarn of Rayon, Acetate and Synthetic	US\$ 63.15 per M3

3. フィリピン運賃同盟

Item No.	Commodity	Rate
V-1	Cotton Textile & Yarn & Manufactures & others	\$ 104.50 per KT/M3
V-1	Chemical Textile & Manufactures	\$ 104.50 per KT/M3
V-1	Flax Yarn & Manufacture & others	\$ 104.50 per KT/M3
V-2	Silk, Woolen Textile & Yarn Manufacture & others	\$ 138.75 per KT/M3

輸出

組合業務報告

◎ 繊維品輸出荷主連合会 (TSA)、第 20 回通常総会を開催

繊維品輸出荷主連合会 (TSA) の第 20 回通常総会が 6 月 27 日 (火) 正午、輸出組合会議室で開催された。出席者は、会員総数 15 社のうち、13 社 (書面出席を含む) であった。

総会は、内海会長 (輸出組合専務理事) が議長となり、開会。以下の第 1 号～第 6 号議案について審議し、いずれも満場一致をもって原案通り承認された。

- 第 1 号議案 平成 17 年度事業報告書及び収支計算書等承認に関する件
- 第 2 号議案 平成 17 年度剰余金処分 (案) 承認に関する件
- 第 3 号議案 平成 18 年度事業計画 (案) 設定承認に関する件
- 第 4 号議案 平成 18 年度収支予算 (案) 設定承認に関する件
- 第 5 号議案 平成 18 年度における TSA の会費徴収保留に関する件
- 第 6 号議案 平成 18 年度役員選任に関する件

なお、平成 18 年度の役員を選任した結果、以下のとおりとなった。

- 理事：蝶理株式会社、新興産業株式会社、豊田通商株式会社
- 監事：NI 帝人商事株式会社、株式会社野澤組

その他、「航空貨物特定荷主・特定フォワーダー制度」実施に伴い、特定航空貨物利用運送事業者等に対し、「航空貨物安全宣言書兼爆発物検査承諾書」の提出の有無等、本件に

係わる各社の対応等について、また、国内港湾の視察、見学会開催について、情報・意見交換が行われた。

輸出入

組合業務報告

◎「外国為替の基本」講習会の開催（大阪地区）

日本繊維輸出組合、日本繊維輸入組合および社団法人テキスタイル倶楽部は、在京阪神地区の組合員・会員各位の若手社員・新入社員に対する教育補完の一環として、「外国為替の基本」講習会を下記の通り開催した。受講者は147名と多数にのぼり、盛会裏に終了した。

記

1. 日 時 平成18年7月4日（火）午後1時～午後5時
2. 場 所 大阪府中央区備後町3丁目4-9 輸出繊維会館中地階ホール
3. 受講料 無 料（組合員・会員に限る）
4. 講 師 三菱UFJリサーチ&コンサルティング
国際事業本部 貿易投資相談部
次長 平尾 喜代次 氏
5. 講習項目
 - (1) 為替
 - (2) 国際収支
 - (3) 並為替による国際決済
 - (4) 逆為替による国際決済
 - (5) 商業信用状
 - (6) 外国払い切手
 - (7) 両替
 - (8) 為替相場
 - (9) 外国為替法

－2006年度アパレル委員会海外調査ミッション実施概要報告－

日本繊維輸入組合

輸入組合・アパレル委員会では我が国市場への繊維品供給先の多角化を図るという観点から海外ミッション派遣を委員会事業活動の一環として実施している。今年度は6月17日（土）～6月25日（日）にかけてアイルランド・スコットランドへミッションを派遣した。以下はその概要である。

2006年度アパレル委員会海外調査ミッション

1. 実施時期 : 2006年6月17日（土）～6月25日（日）・9日間
2. 派遣先 : アイルランド、スコットランド（シェットランド）
3. 団員構成 : アパレル委員会（尾川委員長団長）7名、事務局1名
4. 内 容 :

アパレル委員会では、輸入の拡大とグローバル化、我が国市場への供給先の多角化を図るという観点に始まり、近年のFTAの進展や欧米クォータの撤廃に伴い、アパレル生産における国際分業の進行や、貿易取引をめぐる環境、構造の変化に対応しながら、中長期の視野から広く海外の新しいファッションの芽・輸入供給先を調査すると共に、日本市場を正しく紹介し、アパレル輸入の安定的発展を図ってゆく方針の下、海外調査ミッションの派遣を委員会活動の一環として実施して参りました。

本年度につきましては、日本経済が脱デフレと景気回復感にあり、消費の二極化が顕在化する中で、その一極である、差別化、上質化志向の市場ニーズが益々期待されることから、日本市場での良質な衣料製品需要の高まりに備え、ケルト・北欧文化圏のアイルランドとスコットランド(シェットランド)を訪問し、セーター等を中心に“本物”発祥の地における、感度の高い製品作りの再認識と、現地の生産実情等を改めて調査・分析する事と致しました。

アイルランドは、アランセーター、ドネガルウール、アイリッシュリネンなどの発祥の地であり、またスコットランドはシェットランドセーター、フェアアイル、スコティッシュカシミア、あるいはタータン等で有名ですが、昨今の急速な国際分業の進行、特に中国の台頭により、これらの伝統産業が厳しい価格競争に巻き込まれ苦戦を余儀なくされている現実があります。

その中で上質志向の限られた顧客に対し、本物のみが持つ味わいと伝統的手法による小ロット生産を武器に、肌理細かい営業活動を行う事で生き残りを賭けて奮闘している中小規模の現地メーカーの姿を目の当たりにし、自然な共感を覚えると共に、「洋服の原点」でありながら、その対極にある今の厳しい現実との対比を直視する事で、衣料品ビジネスの面白さと難しさを改めて認識する機会を持つ事ができました。

忙しい日程ではありましたが、今回のミッションも各訪問先で活発な意見交換がなされ、シェットランド島では伝統技術の継承を目的に設置されたシェットランド・カレッジ（テキスタイル科）の実習で島精機の最新鋭編機（SES）4台が活躍していた事など、我々にとっての新たな発見も数多くあり、大変有意義な成果が得られたと団員一同自負しております。

尚、今回のミッション派遣に当たり、実施準備並びに現地での受け入れ・案内において下記、関係協力機関に大変お世話になりました。この場を借りまして改めて御礼申し上げます。

－関係協力機関－

アイルランド：アイルランド政府商務庁、Enterprise Ireland、Irish Knitwear Exporters Guild

スコットランド：スコットランド国際開発庁、Shetland Enterprise、Shetland Islands Council, Scottish Cashmere Club

◇団員名簿

氏名	委員会	会社名	役職	所在地
団長 尾川 勝也	委員長	三菱商事(株)	ライフスタイル本部 繊維統括部長	東京
長田 伸一	副委員長	伊藤忠商事(株)	ファッションアパレル部門 アパレル統轄室長	大阪
世一 秀直	副委員長	丸 紅 (株)	繊維部門長補佐	東京
重松 守	副委員長	兼松繊維(株)	執行役員 営業推進担当	東京
島村 託雄	副委員長	住金物産(株)	繊維カンパニー ニット第二部部長	東京
今井 哲史	(副委員長)	豊田通商(株)	生活産業・資材本部 BR室 部長補	大阪
森本 審	委員	興 和 (株)	繊維事業部 アパレル第一部 第一課課長	東京
市川 順一	事務局		参事	東京

◇日程表

日数	月/日 (曜)	訪問国・地	摘要(移動・都市、現地調査活動等、及び宿泊地)
1	6/17(土)	アイルランド	出国 成田発(JAL)→ ロンドン経由、ダブリン着 ダブリン
2	6/18(日)	同上	市場調査(ダブリン市内及び周辺) 同上
3	6/19(月)	同上	Avoca Handweavers訪問、見学・懇談(Wicklow) アイルランド政府商務庁(EI)訪問、アイルリッシュツイードメーカー、ニットメーカーと懇談(Dublin) 同上
4	6/20(火)	同上	Boyne Valley Weavers, Branigan Weavers(テキスタイル・アパレル)工場訪問、見学・懇談(Drogheda) 同上
5	6/21(水)	スコットランド	移動(ダブリン-グラスゴー-シェトランド) シェトランドコレクション他訪問、シェトランド・カウンシルと懇談 シェトランド
6	6/22(木)	同上	Jamieson Spinning 工場訪問(Walls)、Victoria Gibson、Joanna Hunter(ニット)/Flavour of Shetland、シェトランド・カウンシル、 デザインカレッジ訪問、見学・懇談 同上
7	6/23(金)	同上	移動(シェトランド-エディンバラ) スコットランドカシミヤクラブ代表訪問、懇談、ショップ見学 エディンバラ
8	6/24(土)	同上	エディンバラ市場調査 エディンバラ→ロンドン発(JAL) 機内泊
9	6/25(日)	-	帰国 成田着

－寝具インテリア委員会の「インテリアライフスタイル 2006」への出展概要－

日本繊維輸入組合

輸入組合「寝具インテリア委員会」は本年6月14日～16日まで東京国際展示場で開催された「INTERIORLIFESTYLE 2006」へ出展し、委員会社5社が協同で「輸入組合ブース」にて展示を行い、各社が取扱う商品のPR活動を行った。出展概要は以下の通りである。

展示会名称：「INTERIORLIFESTYLE 2006」

－アンビエント・ジャパン (生活用品・インテリア国際見本市)

－ホームテキスタイル・ジャパン (ホームテキスタイル国際見本市)

会 期：2006年6月14日(水) 10時-17時
15日(木) 10時-18時
16日(金) 10時-16時30分

場 所：東京国際展示場(東京ビッグサイト)東4・5・6ホール

主 催：メサゴ・メッセフランクフルト株式会社

出展者数：526社(国内288社・海外238社)32ヶ国・地域〔前回455社/24ヶ国・地域〕

来場者数：23,703人(登録者数)〔前回20,518人〕

出展組合員：丸紅(株)、伊藤忠商事(株)、西田通商(株)、N I 帝人商事(株)、豊田通商(株)

展 示 商 品：ホームファッション類、ベビー用ホットカーペット、タイルカーペット、高機能寝装品、デザイン家具類などを紹介

伊藤忠商事(株)



西田通商(株)



丸紅(株)



N I 帝人商事(株)



豊田通商(株)



－東京・名古屋・大阪で「貿易実務の基礎研修会」を開催－

輸入組合は2006年6月、東京・名古屋・大阪地区で「貿易実務の基礎研修会」（大谷講師）を開催した。開催概要及び講演項目は以下のとおりである。

「貿易実務の基礎研修会」

〈開催概要〉 講師：ジェトロ認定貿易アドバイザー 大谷 巖 氏

東京地区 日 時：2006年6月9日（金） 10：00 ～ 16：00
場 所：東京ファッションセンター（TFTビル）会議室
聴講者：178名

名古屋地区 日 時：2006年6月14日（水） 10：00 ～ 16：00
場 所：名古屋商工会議所 第4会議室
聴講者：25名

大阪地区 日 時：2006年6月15日（木） 10：00 ～ 16：00
場 所：輸出繊維会館 BM大ホール
聴講者：140名

〈講演項目〉

序 章 はじめに

第一章 市場と調査

- A. 商品と海外市場調査 B. 取引商品・パートナーの見つけ方
C. 信用調査

第二章 貿易取引の形態

- A. 直接貿易と間接貿易 B. 代理店取引 C. 一手販売取引

第三章 引合から契約まで

- A. 価格算出 1. 輸出価格の構成 2. 輸入価格の構成
B. 取引条件 1. 品質条件 2. 数量条件 3. 価格条件 4. 受渡条件 5.
決済条件 6. その他の条件

C. 引合い

D. オファー・カウンターオファー

E. 契約成立

F. 貿易の流れ

- 第四章 インコタームズ (International Commercial Terms)
- 第五章 貿易貨物の輸送
 - A. 海上輸送
 - B. 航空運送
 - 1. 直送貨物の運送 (一般貨物)
 - 2. 混載貨物の運送
 - C. 国際複合一貫運送(International Multimodal [or Combined] Transport)
- 第六章 船積書類 (Shipping Documents)
 - A. 船荷証券 (Bill of Lading)
 - 1. 指図式(Order B/L) と記名式 Straight B/L)
 - 2. 船積 B/L(Shipped B/L) と受取 B/L Received B/L)
 - 3. 無故障 B/L(Clean B/L)と故障付 B/L(Foul B/L)]
 - 4. 遅延 B/L (Stale B/L)
 - 5. 通し B/L (Through B/L)
 - 6. 複合輸送 B/L(Combined Transport B/L)
 - 7. 海上貨物輸送状(Sea Waybill)
 - 8. 航空貨物輸送状(Air Waybill)
 - 9. 航空貨物輸送状(Air Waybill)
 - B. 商業送り状(Commercial Invoice)
 - C. 梱包明細 (Packing List)
 - D. 保険証券(Insurance Policy)
- 第七章 取引決済方法
 - A. 信用状付き為替手形決済
 - 1. 信用状の意義 2. 信用状の種類 3. 信用状発行及び接受時の留意事項 4. 信用状の開設 5. 条件不一致 (Discrepancy)
 - B. 信用状なしの為替手形決済
 - 1. D/P 決済 2. D/A 決済
 - C. 為替手形無しの決済
- 第八章 保険
 - A. 海上保険
 - 1. 共同海損と単独海損 2. 単独海損分損不担保 (FPA)
 - 3. 単独海損分損担保 (WA) 4. 全危険担保 (A/R)
 - 5. 戦争保険とストライキ保険
 - 6. 保険の始期と終期 7. 予定保険
 - 8. クレーム提起と保険金請求
 - B. 貿易保険
 - C. 製造物賠償責任保険 (PL 保険: Product Liability Insurance)

第九章 外国為替

- A. TTS と TTB
- B. 為替先物予約
- C. 為替リスク回避策
- D. 採算レート
- E. 改正外為法

第十章 貿易関係法規

- A. 外為法による規制・管理
 - 1. 輸出管理・規制（輸出貿易管理令）
 - 2. 輸入管理・規制（輸入貿易管理令）
- B. 輸出入取引法による管理
- C. 国際条約・協定による管理・規制

第十一章 関税制度

- A. 関税三法
 - 1. 関税法
 - 2. 関税定率法
 - 3. 関税暫定措置法
- B. 関税率
- C. 特別な関税制度
 - 1. 特恵関税制度
 - 2. 関税割当制度
 - 3. 簡易税率制度
 - 4. 特殊関税

第十二章 輸出入通関と船積み・荷受の手順

- A. 輸出通関
- B. 船積み手順と書類の流れ
- C. 輸入通関
- D. 輸入貨物の荷受（コンテナ船の場合）
- E. 保税地域

第十三章 クレームとその解決

- A. 貿易クレーム
 - 1. 品質に関するクレーム
 - 2. 数量に関するクレーム
 - 3. 貨物受渡しに関するクレーム
 - 4. 価格決済に関するクレーム
 - 5. マーケット・クレーム (Market Claim)
- B. クレーム解決法
 - 1. 和解
 - 2. 調停
 - 3. 仲裁
 - 4. 訴訟

◎「ブラジル」向け他5カ国の保険引受方針変更(輸出組合)

このたび独立行政法人日本貿易保険(NEXI)から、“「ブラジル」(国コード: 410)向け他5カ国の国カテゴリー及び引受方針を変更し、実施日より適用する”旨連絡がありましたので、通知します。この結果、以下の取扱いとなります。

1. 条件引受国から通常国に緩和(2カ国)

〈国コード〉	〈国名〉	〈国倍率〉
410	ブラジル	3.8倍(4.5倍)
401	コロンビア	3.8倍(4.5倍)

2. 国倍率の緩和(条件付引受国4カ国)

〈国コード〉	〈国名〉	〈国倍率〉	〈引受限度額〉	〈ILC取得条件〉
150	アゼルバイジャン	4.5倍(6.0倍)	10億円(据置)	無し(据置)
412	ウルグアイ	4.5倍(6.0倍)	10億円(据置)	無し(据置)
323	ドミニカ共和国	4.5倍(6.0倍)	10億円(据置)	無し(据置)
306	グアテマラ	4.5倍(6.0倍)	10億円(据置)	無し(据置)

* 国倍率(地域差料率)とは、非常危険てん補に係る保険料計算に適用される基本料率に対して掛けられる倍率です。

なお、ユーザンスが6ヶ月を超えるものは、ベルン・ユニオンのルールに基づき、従来どおり引受けられません。

3. 実施日:平成18年7月6日

日馬EPAに基づく 特定原産地証明書発給手続きに関する説明会

主催: JETRO 実施機関: 日本商工会議所

日本マレーシア経済連携協定(日馬EPA)が7月13日に発効します。
製品を輸出する際に、同協定の原産地規則に合致していれば、これを証明する特定原産地証明書をマレーシア税関に提出することにより日馬EPAに基づく特恵関税率が適用されます。
つきましては、このたび、下記により**日馬EPAに基づく特定原産地証明書の発給手続き、システム操作等に関する説明会を開催いたします。**
皆様のご参加をお待ち申し上げます。

開催概要

○開催場所・日程：(各回とも内容は同じです)

東京: 7月12日(水) 10:00~12:30 東京商工会議所7階 国際会議場 千代田区丸の内3-2-2
東京: 7月19日(水) 14:00~16:30 東京商工会議所4階 東商ホール 千代田区丸の内3-2-2

大阪: 7月20日(木) 14:00~16:30 大阪商工会議所国際会議ホール 大阪市中央区本町橋2-8
大阪: 7月25日(火) 14:00~16:30 大阪商工会議所国際会議ホール 大阪市中央区本町橋2-8

○講演内容および講師：(予定)

1. 「日馬経済連携協定の概要」
経済産業省 貿易経済協力局 貿易管理課 原産地証明室
2. 「特定原産地証明書の発給手続きについて」
日本商工会議所 国際部
3. 「発給システムの操作等について」
日本商工会議所 国際部 特定原産地証明担当

○お申し込み方法：

別添の申し込み用紙にてFAXにてお申し込みください。

○参加費：無料

■お申し込み先：

日本商工会議所 国際部 特定原産地証明担当

TEL:03-3283-7850 FAX:03-3216-6497

詳細につきましては、上記の申込み先にお気軽にお問合せください。

※応募多数の場合は、お断りすることもございます。予めご了承ください。

※本説明会の案内は日本商工会議所から依頼し、(貴団体名) が送付しております。

日本商工会議所 国際部 特定原産地証明担当

お知らせ

－ 2006 年 8 月の輸入通関手続相談窓口開設日 －

2006 年 7 月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。
申告手続、品目分類、関税評価、暫 8 手続等々通関業務諸問題
についてご相談の向きはご連絡下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 開催日 2006 年 8 月 9 日（水）及び 8 月 23 日（水）
2. 場 所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時 間 午後 1 時より午後 5 時まで
4. アドバイザー 片山 喬次
(元東京税関関税評価部門特別価格審査官)
5. 連絡先

Tel 番号 03 (3270) 0791

Fax 番号 03 (3243) 1088

E - Mail 0023@j t i a . o r . j p (片山)

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問合わせ、
ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件
事務局担当：国信までご連絡下さい。

以 上

組合員情報

○組合員の脱会

(輸出) 藤山株式会社 (2006 年 6 月 7 日付け)